資料２

環境基本計画検討小委員会（第１回）でいただいたご意見

１．計画全般について

いただいたご意見	対応方針
・第３次計画の計画期間が 10 年で、今回は５年の見直し時期であるが、現計画の一部改訂とするのか、第４次計画の新たな策定とするのか整理が必要ではないか。 ・第３次計画の一部見直しなのか、第４次計画の新たな策定なのか、考え方を整理する必要がある。	「第４次兵庫県環境基本計画（仮称）」として全面改定を行う。（資料３参照）
・改定に当たり、基本目標もすべて見直すのか議論すべきではないか。	第４次計画として、新たな基本理念を設定する。
・環境局以外の施策の調整の目途はあるのか。 ・全県ビジョンとの整合を図り、ビジョンの内容をどのように動かしていくかということを基本計画に書いたらよいのではないか。	環境部局以外との調整は、庁内に部局横断的な「基本計画庁内検討プロジェクトチーム」を組織し、各部局の意見を聴きながら計画策定を行う。
・動的な人口偏在化が起こる中でのダイナミックな環境としてどういうものが考えられるのかということが必要ではないか。 ・現計画策定後の４年間で今までになかったような社会の変動が起きている。人口の減少と偏在化が起きる中で、次期の計画は、現状の延長線上では成り立たないのではないか。	人口減少社会に入るということを前提に置き、環境対策を検討する。
・兵庫県の特性・特長を把握した上で、地域の特性に根ざした特徴ある環境対策を検討してほしい。 ・都市部と農村ではどこを抑えたらよいかが異なるため、生活者の視点で何をしたらよいのかということがはっきりわかる計画にしてほしい。	地域の特長に応じた取組について内容を充実させるよう検討する。
・国の政策に頼っているということと、兵庫県としてやるべきということを仕分けて計画を立てていくとよい。 ・国と県の役割を認識し、地方自治体としての役割を計画に入れるべきである。 ・地域から発信することも反映できるような計画にすべきではないか。市町がすべきことは市町に任せるとして、県が市町をサポートできる施策を書き分けることが必要ではないか。 ・主役が誰なのかということを明確にした方がよい。４つの社会像は県が牽引する施策、基盤づくりについては、NPO や県民・事業者が協力する施策という考え方で、参画と協働というニュアンスをもっと出すべきではないか。	計画本文作成時に、国・県・市町の役割を意識し、内容を記載する。

２．各分野の取組について

いただいたご意見	対応方針
＜「生物多様性の保全」について＞	
・生物多様性の確保ということが、里山の身近な自然の再生にもつながるという、分野間のつながりをきっちり書いてほしい。	分野間の連携は、次期環境基本計画の基本的な視点として重要であるため、本文の作成段階で配慮する。
・外来種対策について、もう少しきめ細やかな対策を検討してほしい。	本文の作成段階で配慮する。
＜「地域環境負荷の低減」について＞	
・「環境低負荷型社会」という名称は違和感がある。	次期環境基本計画では、「安全・安心な生活環境」と名称を変更し、身の回りの生活環境における環境保全として取りまとめる。
＜「政策領域の統合」について＞	
・統合という概念は、矛盾する内容を１つにまとめる場合に使うが、統合ということを前面に出しすぎると、中身はどこにあるのかということになりかねないので、注意が必要ではないか。 ・統合に係る仕組みをどう位置づけるか、環境アセスメントも、統合の中で検討しておく必要があるのではないか。	「統合」の表現は、どのように施策を進めるのか不明瞭であるため、「分野間の施策の連携による取組」と表現することとする。

３．目標の設定について

いただいたご意見	対応方針
・データを重ね、検証を行いながら中期目標のようなものを作っていってはどうか。 ・現計画の評価について要因分析を整理すると次の計画の議論がしやすくなるのではないか。 ・これならやれるという目標を設定し、具体的なやりやすい計画を念頭においてほしい。 ・評価指標は、環境基本計画の下位計画に掲げる目標値をすべて拾い上げるということではなく、何を取り出してきて、基本計画の指標とするのが良いかどうかの議論が必要ではないか。 ・目標設定は、骨組から詰めていく方法と、具体的な目標をある程度イメージした上で骨組を検討するという方法があるが、具体的なイメージを議論した上で骨組を考えた方が議論しやすいのではないか。	目標設定については、下位計画に掲げる目標と整合を図った上で、代表的な指標を環境基本計画における指標とする方向で検討する。

・前回の見直しの際に、生物多様性等は指標を作りにくいため、現計画の間に指標を検討し、次の計画までに指標を出すようにするとされていたため、指標の考え方も並行して検討しないと進捗管理が難しいのではないか。 ・生物多様性のように、目標の設定が難しい分野については、目標設定の仕方自体が良いのか悪いのかという部分も含めて、演繹的に検討することが必要ではないか。	目標設定の難しい分野については、指標の考え方を整理した上で検討したい。